畫譜夜夢

巳

女婦の訓目録

一 上中下女の称号
一 小男乃女の事 付り下女仕のこと
一 同慈悲のこと 付り平生のこと 付り石仕様日乃こと
一 人に高位もこと
一 小部女人をもこと
一 同奥深き事 付り心ばのこと
一 上下女平生髪の変
一 平生立居振舞こと 付り衣裳の事
一 女発達業人を乃変
一 表へ立乃時のこと 付り内ニ通ひ人乃こと
一 婦氣嫉妬こと 付り勝えのこと

一 男をく仕女のす 付り主人奢るの事
一 女他行の事 付り産養付れ事
一 女事のつゝ書ゑんのす
一 極氣なるす
一 目をのす
一 常の仕やうれす 付り髪結す
一 氣粧の事 付り生地を慰といふす
一 油たるす 付り盛物の紅粉の事
一 袖作のす 付りおくれす
一 妻をく事
一 初いまひのす 付り女八重九幸といふす
一 大分に成てのす

女婦の訓

あるおとゝし女婦れうあるさうしをゑん侍
ほふケ原とあぶくゆかい書をとゝへあく
まけるふやう夫婦ゆふて侍をくどりいとこと
ヒなる事をるれども考うたてそこにま
いるとるり見ちり女婦れ去歌
越ちんぞうといハ夫の家にゆさく姑ふつり
わるたに内を治るゆへよ新遊と名ぢく新八ちら
たむふなり遊ハたるとなり又風宗と学く
ふれまとのうちに居て園門ちをとゝへ出て
外にこれをりちゆへとうけ侍りし 神兒
といふをおるゝじんとそ神ハ物をいちなりとるも

児いちこあり女子をもいとけなくをかしうちこと
や侍り今俗に北の神人といふあやまりなりさ
きと尊称とのひらうに北つ方に侍り大納言小弁乃めこを
を西原宮の神児とはやなりまのごとれあるひな
や大明の簾中姫宮を西原宮の料児といへば
其家中れめこハおなじうに云べうべと侍り
のうちおさてとして世の物語に西つ方もを
や侍りなてさハ侍らん西原宮料児とハ武士れ家
主をとをとびいふ稱ちくをんだれハ侍んどれハ
はさうなりをれうたつをめ侍りつく
奴僕のあるをうくおりまをば侍乃簾中

をうぶ稱をれいとをなどていみ侍らんたとへ爵位
といでく云ハ侍家中ちハ男といふをれ家中
の武士をもこを家人ハ男といふをれ家中
いみ侍ばこををいを侍り女云乃稱を
てをうりハおりハ西さじそれをいみ侍ハんの
うれをくや侍ん曹子見といふを簾中れ侍
うれをくと曹子といへどもあうりまハうりやを
のうへ乃西を畫といふを卷壁どこ侍とて坊
乃侍食をのうやうれ不侍いへど一の人れ西を
侍食てづうまりかハ西侍ハやうハなれども
こを下知ハうちいづをべうり改不をを内の
奴れいづるゆくをや小のをとを侍らを陽とをて

ら説をうちとすもとゞ小ハ門のきれ角をてな
きてゞうちといふんうやゝんせてうりていおを
もおさあさせゝふ人の小のこさハさゝにもいとゞ
それらりてつさいかゞぐゞにたけくい飯食をも
らゞめうれすいやゝれすとおぼく給ひてん
にうけさせ給ふいあやまりあやゝん文玉の
きけれいみゞれきされるまゞどもとうひこ
ひとうませ給へゆうくも此後せゝ大和にもむう
しハとてうやうに給りうん河国たゝれ上ら
いいやゝれ人のむきをもせゝ左大中ねりかひ
給ふとおりくゞいゞんのうれ人うて今ま
い二三ゝれ上れも給ゝんにてづゝ家ごろ

うつもとものうり給ふやさんいかゝとのれとう
まもおりとハ行とおさろ女ハうちをれさむとと
のさまひ給りうちとゝいふ飯食衣服とおさろ
て君ふにをそてゆうりあう出角もり家ろ
おとことんかをもとりうゝびめぐ角せ給ふが
角とおさむるとハや給ゝやうきれ出てこハむつ
うれにまもてつゞ人のうの人あるゞびなどうと
づうハせんやそれいかゝつうれすとうそのう角
ゞれどもそをもいかゝとをうしめさゝびなりむ
らされのさみのそあうえの上ゞなゞやゝ除むう
りの家の小のうされ百人のゞん人の冬れ来うこで一
うなををそひ給ふうをもちうしめせなどゞ古

の人いくあり加ゑ四ツまたはたりしやされば人
の姫ぶみをくゆゆせ給ふて飲食衣服ぬら
をくとさろ男姑をのよあづるの孝なるとよ
ゆことを世ゆひ支婦むつまくおほふおろこ
とんるもの上福乃ひてなくけくしれとけを
がくおりひをくはつり上をはとらぶれるす
なくちづふしてがにむすれおつくよく内に
ちちの女なくさくゆまげれ家をもおけめ
ろてとそこなハぬふをなる称ども又内づく
もたるぬたれ人まぐをもを中にいづれろう
なるハをろれをいやしれも新造のよれゆくて
ゆりを人の家乃ちしたの婦人のふもとろにるぶ

いと大事なるものに侍りをやうケ原にゆりし
先まづ
一いやしれ味噌塩茶まぐを人むちりゆろりゆ
ふたぐの小別れ家をそハぐちりわつくをを
かるハざれるなちされバとて女ちりづりを石ほ
ふりれ家をちバ新造奥方といをくとちれて
ちちハちぐをしおををれ内なひをちぐひてをを
くををぐにぬをくるれやうにいひつくれをのをて出ハ
しまくちををばこをそ又雑事にゆさて出入と見
始りんすハあるべをのれでおほひ称いひをち
ねをバひちをわをちてハちる内ぐをめや
一こりををてをちをぬるくををせちくくをちひを

ゑとかとハいをゆきなりにもれてくるは
人をゑびとをみづからなとをとうしてハ四月ハ
生ぶうしおきけとうあくく人とばかりつゝくべきる
おもなとのゆさんぬハなるしにすにたるゆをハ
むとうをとうさうあくくあまりまさなうけさて
にんゆうさはまづれなり

一 あるゆ月ハ奥ごとのおうとうをうけおしに四方奥の
ゑるまいよゆをおゆ日のうちをはるにあつゆ
せくあるまづなりあ食におつゆのおひく他よふ
しりのを内に四ゆうをまち飛ゆを男女ゆうく
まぐまいてこづくさむしさ河ハをれなりまわなれ河
ゆるまづるにいををくゆれとうゆくゆうし

ばかとうるゆんづれとんじりしたくゆ
ゆうみハ食ゆゑまかでもこをじれ慶美などハよ
ゆうこづゆおうしておりゆ

一 常とをを女ゆうくハ日のゆれこふ和ゆさひれよ
は食のこりうゆうにゆうくい

一 ゆ月今日ハ伊の日ゆをハけうの事とを菜れこる
とれやゆをゆれすにうくればすうづをゆはいくし
つふ女を前じくはつゆくいつをいををしれゆる
河ハいゆくうくゆなれるうれどをとればくゆ
前旬四月重なるハ日ゆをくをのゆを拝ふと
うゆ（下ぐくの男女ハまつうにくばうれれハ
いとゆゆうにかをとをれちをうゆくをゆく

又ハ父母兄弟の忌日ゆゑにもてなくへ乃めしあつ
れハ[illegible]なりに屠ハ大やうなる[illegible]ものゆゑ[illegible]
のゆハぬもゝんれめぐみにてらでハふかハざるゆゑ
一ものこゝろさしむつまじ[illegible]たのうへ[illegible]おこなひ
ともいやしうしねやにおりまゝすべしつれ食
業儀のゝれされるもたくさんなるハおそれにお
ゝぐさるゆなりものゝ色どもおかにほいかゝ入て先ゞ
の下女のゝさへ[illegible]ほとあるく色所にたくへ下さて
はもゝ又一ゝはのゝ[illegible]なんゝ
一ゆゑの家に向めくゝもとゝあるゝちゝれも
[illegible]にりのゆゑせゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
の[illegible]ゝもゝぬくまゝくにゆゑゝくゝゝゝ[illegible]

一[illegible]ハ業の[illegible]へも[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝくふゝ[illegible]ぬ[illegible]ゝ[illegible]
一せんざいへとりて[illegible]
て[illegible]ゝ[illegible]
一大さたいそゞしゝ[illegible]
[illegible]へ[illegible]ゝ[illegible]
なりされゝもゝ[illegible]
はゝそ[illegible]
女乃ゝ[illegible]
たゝ[illegible]
中の[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]

だう人のうくまいりうくを下女のそれぞくをそがほど
せにこぐうしきわいをいはゆさびかやうれのもだつうく
上長の教性くくこのうはのぞうし

一 立居ふるまいさびふかみやみざうり女房ありうれ作す
ありやうつひとうれ上箱になうひくくさうれとは
ふるくわうべうさのなんり

一 歌ふうさものやう法ふとも弱常に表ふしうれ
こそたけまうとそちにもまくどるとめてくく
なれはうづうさすはをりごれどれは又お常ありり
うしはうさふはは見ぐ尚しれす

一 反の衣裳はをかしきをそれ衣裳はあのうちに仕
をうるやうにわくぐせうくしうぞうは尚ぐうさ

とて紙をとりしれんをうるうして女をとばつうあさ
せはうふ尚しれるりわにはうりゆうぐうちをうせあ
まひく筆跡をるくもれれ筆紙をもう尚せはう
ひくは兄国にとりさをはひて山んをうるうせはう
わりわぐつうあさ場はうくて山んを紙入をせはうん
とうるれはは上ひ出ぐしうばくうりて杉ー
ををうるり石仕あるわをたいうつせざうやうに作
つうれうしわくは山んをつけうをはひて体
意そわう尚りけ

一 おりそにまはぐわう時菓を出しくはうび作ふた
おばかさうしのうは尚ぐおとこのあに女の作法
いをはぐれす但男なれあはそれもけぐさしわうち

くるまくで女をとこ女をとこ
あるひとくあるもせつけらまとう
一部に異へとそとも世ふ人ありてのいせ物くに一段
いとそとりざ一段ハなとりざなく入まぜて舎せ物ふ
へしまきくの庭とんでけさも物ふてさしむう
ひふおりに向うふうにわいざとくこをみにそ
むうくおりに向ひべしいうあるで三尺ようも
うちのれておりまも畑にとなハ花すり東ハ大ぐを
とをむうふをとをむうも物ふべしわいうあて物う
きバおごむきてとバどくかにのきこをぬづを
におゆもけうれてうし女ふまとうさてハやさで物ふか
ゆべしこれどむうふおりふ人ふうべしれまとて

とくつうふとなさやうにわうべし紙くりんうう
ふまでいひごとしくごりのうくもみうくとてご
かうハおさも物ふふあるゆ向で
これくハ大身小男でんごとあさいやしれふゆ
くにあるうなうち
れこれもぐいたく人ぐ二人ぐらつくほどの小武
おくぐれうなうち武ハ十人ばかりもあとりつハ
きとくバきうう物ぐをくうくうぬゆふあぐう
女方のうをきうも物ハ紙ぐ人もかきまきう武
ねぐくおがうして八世乃ありゆまもきて武
ひかれ情うとうれバきうびくふうけなれふの也
らむうまくまぐれいとあをきう物ふつびハ勇

のおごりとなるすにくバ出給ふとぞ
らひどう給くいやしれすもわとくこもくはうを
次第に上らうーしれすにいたるなり

一 梅氣嫉妬ハさもしきものなり出家なみ重一上
りハ出家にいたるまでこれ幸わくじわるふるにい
やさを給へーー変ぜあげ兵をとこ海でくしてい
ばらえ男ともくぐろ色をれわれすをだふ書
のいふすハ学ノくわぞーー海ーて云ふうつうを
そひて文やうふうれくいひうんにおぐうこうぎ
はべさ

此一段 女子訓ふ
のケ原大事略記

一こうりとなどはそぐどうく女変の出ないそになり
ふぐうわ次ぎんどせはハ卦うふひ奇妙ぐ人
ぐぬ文などやさばそうくかりすに海ぐうり
きう給ふまぐこさなわうれすれわかうり家に
てもはやもれるすハ出ん所とうこもせ給ふば
れふ云こうけうのうちなひ奇妙ふぐ人云ぬ
文いやらうのすくく上為のせあすなりよ
こ事寄ーてもるうれるすとハ貞女忠臣孝子義
文賢夫仁愛信友などのわぐうりなりこも上
藤ノすりうされバ心わるくいうそれわかうり
のおもむきくくも上為下らう考ふ小人そう
すを知ぐーれはすぐやる婦のとへ

一はそもじに石つるこ女はだいと菜のるもかへいさ
さを作る所ゑれなりてあり一ねつづきて能いい中
こうぐしそれをもちいつるこすぐしてれいまーえ
おくゆゑ能あり生ぐなんとかくれんとてうーは
うつぐさなり
私ともは大身小身やんごとなきこそをつる
ようなりやんごとなき蘆中れおもごろうる女
中房やうの人までもげくおりくに出て男
にまうりあはさすもだとづーれ女性ふ
くなり悪はおのこのやうにはーれうもあつる
つまうさいまとぐくはこさてぶゆーくかるあ

なりされバ姫君ゑ何のんまるもバ共おり
人女婦の為能にもぐぐまひ作ふりのふ
ま女のとくはたまこばとくかたくもづふ女ーくえ
づーれをおとれ女婦こまれおりーぶーも
おりうづくりまはわーど
一はぶはゆるもにいつもあく分作ふはは人えまい作ふ
ともはゆ出れはーくりありくはうもたまゆ能ぶて
くくーくぬはゆかづくもうまおのぐりにえば人
にゆびくくくすもあぐくはゆう
一はは一門ゆりのくあわくもたまづーれくくを作
づは家人やうまはなくくくーくぶくーはくくを
はけくを作べーくくを分作ふまくおりくにくる

すわうどくせよかへくのすわうだかうにせよ
とくくあらせけらるべしわれ祝に
むうふだらーさへうもどくおしたことをあるぞう食
まいりとしもかさうつりのにうをてまいく
しくでわうどいてうるこさせたへ向ぐ自れ
まづうとう指ひてあるこさせたくかいめ
ばうまくを大なうくでわいにうて一うとのうを
うにおうさを指ひてうしたう

一同ようせ指ぐ上発ぐれうまひいなくとこに指
おちもわうくうちをうんこの和になとうせ指
ぐしとたくふ出家のぐくうそくいかーたう
ひいたのぐうやのわーぐれをすうてうぐれいうう

かんうちうんゆまじ出ふづる才一なうを
そうこうを指ぐうんうをうにおくゆくをつまを
おくわぐうりそういんやくて変るになうれ
なういんとうもくうぐふむうくおはとうれくよ
しー女のいとくわいいはけうなうくー

一女の四像いは美別うくもかつくもぐ出指ん
うこうを中にうれるをうんわうりめをぐ別後上為
変ようをえうを指るうをーうをしくさいく
出指んうぐうをひにいんつうじおり指くおぐ
めうをぐーいうこぐひわうぐ反にそうひうを指く
一種氣なないわうれ出るめうう指ぐ出ふなぐうう
せ指ぐだしー

一 御のわをうれにうちしたんろハせそこ御ーちり
わにうんとこをそういとあいさそうわり源氏わかう
ゝを紫の元光だねかうし行すぐさとをらんで
おろろくゝこゝいろにうにーらをりてげてをそう虎同
にみおこをそうはきしつうさまみうりくいそうう
くしげなうとほうくうあう
はんでさみのつるにたもしまにのこゆひくそて
すどおーしーめをまふすけうされどおもし
ろうさうかなまだつるくにうれつけくたてまう
なう
一 帯れくでうろよをあくをそうろハんなうさ女の
ようくいみせまれ帯ハ色ばげーろも同ろ物

虎こ帯ハ色とうねうにせまれ帯ハせまうる函
まにほーやうくをくしー塔のすーれそうれくこれ
おふーー帯ハ先とくーなうをとりる帯む紙ぞう
なうハ四金女ろす虎虎にうろうろ柱女のわうる函
いくりるふーーわげーさーーばくさーばくのうち
すうーさーりわなうーうる
一 うれ上箔のかうねハ兄ーーくーー引うをーな
はべーーをまーハとうそーに似合ー
一 うーのーー板をうれーーくなうる無に白粉をーくく
こわうたうーーんーーうーーれうのいーーーれてれ
ぬーうを乳粧ハ仕やうわうーすなう大ーハあれはう
ひうい亀おとーねをつあねとうなくーてあれ

一　ゆへ小形にしてくしけづりすうわく
高世生世をしろこびて化粧をきれいふとしてと
なれるものの生代をこせくこゝ行こびゝ頭城のす
うわ者更のそちに乳粉とろわなり白粉ぬりう
にわらうこれ行うち髪ぬをあざやく色
なりとをとこしへ又高世更わりに男
いゝ化粧をこゝ行ふ色行ゆこゝつ者と女
をいまこれこゝろこんてものがんとやりうこれにて
男を又髪花なるうんすりけばこゝなれ色を
すぐわこゝ人の姫子ふさがこゝろに良いなれるを
ことゞ男の清裏糊紙といをのこてけり
一　油をつくるわとんくいやこれくこゝびのまろまど

をもこてあこゝ者ゆゞこくはこゝなり我よに先
ありこくつくるゆなりおけくつくるとこれいはゞら
ふこゝく油こゝさし油こゝさふ者への紙こてけり
一　まゆどみのゆお鬱髮をけ行りしにこゝびをこと
どこゝけるりさまどゝ色はこゝにこゝく眉ずし
のおさやうわりにこゝひ鬢用ふこりてこれもあるまゆ
嫁のむこゝあはおりくふこゝんゞこゝりこゝをれゆかを
どもまものずこゝをあこゝくをけゞはけこゝこゝ色をあこゝ
なこゝりのゆこゝ又あこゝこれ色をまものずみのをこれやに
てこゝくなゞはこゝあこゝり女はまものずみ者一こゝくおこゝりまゝ
一　ゞこにをつくるわとこゝこゝ行こゝて上口びこゝこゝた唇こゝも
はこゝれ人あこゝりおこゝしこれゆに行こゝつけやこゝあこゝゞこゝゆ

で榊又のほうあをとゝのべ粉をつくれば有るとゝのべくるぐ
ゆしくさゝさゝ祭ゝまへむやうれのなりゝ粉ゝうにつく
はゝ又ゝ又ゝ有れ良のせんゝさるゝゆへなりゝされゝむゝさ
ゝ武アを紙の元れはゝされれゝといんとゝそだにと
ゝふゝゝゝふゝけゝくゝとうゝゝり

一いゝゝゝゝの神ゝゝそゝゝ神ゝゝ合れ神ハかゝゝれ神なりゝ
神ゝゝゝくゝゝゝゝゝ神ゝゝゝゝくゝゝゝゝゝ
世ゝゝゝゝゝゝゝゝ男ハゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
にゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
女の神ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

せゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
をゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

一 おとこ女房のおもへに濃姫をもろハたてしなれ女のもと
へ入りて女わざと髪をとかせたくもつるゆかりとさ
ゝやかりつゞのうさいぐーにつゞめちりもれハとおりひ
ゆゞり結ん髪ゆゝしくかぐ向ーさわにおそーめそのみ
結ん髪のかゞとそれちかげらられ更衣ちハまして
やとちゝびわさゆゝの夫づくゝもくのゝとうご
うーとよちられどうさんさハせどもつけとのあるかちれ
事とのをしくひらもりされども妻れんゆーなれハまの
をめ髪のちゝちゝびんをちとをゆひてうちゝれ
をゆくべーひくうゝね妻ゆゝ髪のちれ目つけなりよ
さ人ハ我身をゆゝーくせんとて髪ゆゝをくとゝゆり

一 おいまひとりあり幾なりを事にうち居く女のおと
うといひよ何ようとそれるおにうとそれば用うら
ひやくうもたるすにおつるくしらうを芸をうゆく
一 女ハ一家の幸に到るもてくれこにひうとゆ結り下
らうのうくうもバ多ハおいまひしおごり長しまれ
家を引ごゆ結りおのうてかに慈してうまてんよ
ひもとのうりとれ本性まて風俗ようしうんこと
こそ称ぐうぐうれ
一 出祖母ごみのこまひしハ人多つるそれくの役人
ある大方れ奥方とそを女のげいの人食おのいてなこう
とれ人ハ下紅のくてもおれ変ぐを行りれまこての
おれ仕におりをもうさおうくれを功えの女ふいひつあくも

下紅おりられバうちづくハせどとも女の役けしひる
るハようしれすもいゆうこうおめうすりしら
こぐをもうぐハ紅ぐるなり又ハ下へのおりひやを
るれおり鼠女とハ云ごこしとのこまうあを又紅
のたりりげ祖母ハいうへのようしておハ西
し幼おりり人多つるゆひて家有にそごう結ひ
人なるをどれれるこをるる織姫もおうう海う
おのこうづ下紅おれとうとうぐどし大唐れ紅
見うて大人の婦人るれぐも髪さうゆこまでよどに
ておりまも出建の髪ちるれハれるづうれうそづこ
られうく結すおしハりおりませ考に居結ひし
ゆ年人にうるるすおくんのとばふ変賢なれば

妻の郎子ともまた賢夫賢なれば孝子なれば
また松栢のごとくにおられて極年人と貴人ハ
ものとゆゑ
はまた女婦ものおもしろきものとなりしづかに
をもしろくまことに女婦まことに
貴をゆるふるとともに味噌貧をうれ
ばあり和なり強にあるに女ふれなかなり奴ふれ一枝
にうつりてそこにまいるものくはつぎぬる
女婦のうそにしてはぎみのれどもこの嘉を
あつめうなりさればの女婦のおしへのあるう
ものす
私にあんぜるに孫の子原ふとられいゆ
事ともうでうるるをいろ女別に小衆
ひさしのるのふのるとのまりに引わ
見給へ